

平成 25 年度 同好会事業報告

地歴 同好会 世話係名 山崎 茂 会長名 新津 朋典

月 日	実 施 し た 事 業 内 容	参加人員
5 月 1 日	同好会発足会、世話係・会長会	18 名
7 月 6 日	第2回地歴同好会 青木廣安先生より、「須坂・小布施の水郷地帯探訪」と題し、巡検を行う。	3 名
8 月 1 日	第3回地歴同好会（夏期巡検） 「上州路を訪ねて 富岡製糸場～絹の里～倉賀野河岸～多胡記」 講師：青木廣安先生 今年度は、上州路を訪ね、上記見学場所を見学した。「富岡製糸場」では、明治の殖産興業の礎の一つとなった製糸業の様子。「絹の里」では群馬県で盛んに行われた、製糸業発展の様子。「倉賀野河岸」では、大笹街道を通って運ばれてきた物産を船を使って関東平野まで運ぶ船着き場。「多胡碑」では奈良時代に建てられたとされる石碑を見学することができた。各見学場所や車内で、講師の先生から興味深いお話をお聞きすることができた。	20 名

今年度の地歴同好会も、夏期巡検をメインの活動として研修を深めました。

今年度の夏期巡検は、夏休み中の八月一日（木）、須坂市誌編纂室主任編纂専門員の青木廣安先生を講師にお迎えして行いました。巡検では、日本の近代化に大きな役割を果たした養蚕と製糸業について、その先駆的役割を果たした群馬県の富岡製糸場と上州での養蚕の歴史を知るための研修を中心に行いました。

一か所目としてまず富岡製糸場を訪れました。ここでは、富岡製糸場が建てられた時代背景やその建築方法。また、ここで習った工女達がそれぞれの地方へ戻り、糸取りの技術を全国各地に伝えていったことなどを学びました。信州松代からも和田英という女工さんがここで習い、信州に戻り技術を伝えたということです。古いレンガ造りの建物や煙突などに、当時の製糸場の様子をしのぶことができました。富岡製糸場については、社会科の教科書にはよく出てくるのですが、実際に訪れたことのなかつ

た先生方も多く、「良い研修になった」とのご意見もいただきました。尚、「富岡製糸場は世界遺産への登録を目指している」ということからガイドのみなさんも多数いらして、親切な対応をしていただくことができました。富岡製糸場前にある、峠の釜飯のお店で昼食をいただき、午後の研修へと向かいました。

午後はまず、群馬県立日本絹の里へ行きました。ここでは、群馬県の養蚕・製糸業の歴史や技術について学びました。養蚕の方法や養蚕のための道具なども見学しました。また、無数の生きた蚕が桑の葉を食べている様子も見ることができました。かつて、須坂上高井地方の農家でもこのような様子で、無数の蚕が飼育され、繭を取っていたのだな、と思いました。

この後「倉賀野河岸（かし）」の見学も行いました。倉賀野河岸は関東平野の西の端に位置する高崎市にあります。江戸時代から明治になって信越線が開通するまでは、須坂上高井地方からも大笹街道を經由して運ばれてきた米などの物産が多数、ここで船に積み込まれ烏川を下り、さらに利根川を下り江戸まで運ばれていったことを学びました。昨年度の巡検では、大笹街道の研修でしたが、さらにその先がここ倉賀野であり、ここから江戸まで物産が運ばれていたことにその役割の重さや、須坂上高井地方と関東地方のつながりを感じることができました。

続いて多胡碑の見学を行いました。多胡碑は奈良時代（和銅4年）、この地に多胡郡が設置されたことを知らせる石碑でした。1300年も前からこの石碑があったということに、歴史の奥深さを感じました。また、この石碑の書体は多くの人々に愛好され、近代以降の日本の書道界に大きな影響を与えたと言われているそうです。今回の巡検では、富岡製糸場を中心に上州路の歴史的遺構を見ることができました。その場所場所で、講師の青木先生からは興味深いたくさんのお話をお聞きすることができました。充実した巡検になったと思います。最後に、快く講師をお引き受けいただいた青木先生、そして巡検にご参加いただいた会員の先生方、また会員以外の先生方や一般の皆様方、ご参加いただいた全ての皆様に感謝の意を表し、地歴同好会からの報告としたいと思います。

（東中学校 新津朋典）

